

執事（会衆の財政を管理する信徒）職務の時期に、私たちは今日の聖書日課を読んだ。私たちが話すのは、どのように教会を運営するかを心配する時であり、どのように教会を着飾るかを心配する時である。資金はどこから来るのか？

私たちの迷いを解くために、現実的な言葉で少し述べさせてほしい。この共同体を支える資金はこの共同体から出ている。私たちができることは建物を貸すこと、この年は教区からある程度の援助がある。この教会共同体を機能させるためには捧げることが大切である。

全期間中に捧げる祈りは執事職務の一部であるが、どのように教会は支払いをするかを心配する事ではない。それは教会役員会と年総会での論議である。

この礼拝の中で、あなたがたが神にお返しする捧げ物の実践を述べたい。

これは日課を読む、あるいは祈りを捧げるような霊的实践である。

ええ、そうである。私たちの富の扱いは霊的实践である。

イエスはお金について語られる。富について多く語られる。

今日の聖書日課の前の節（マタイ6:19-20）で、イエスは言われている。

『あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗みで出すこともない』。

イエスは言われる『だれも、二人の主人に仕えることはできない』（マタイ6:-24）。

私たちキリスト教徒は、しばしこのことをすりつぶしてしまう。富という言葉が無意味なものへと押しつぶしてしまう。しかしもしこの教えが現実的な食べることであるなら。

あなたはあなたの富をどこに置くのだろうか？

そして—それは現金をどのように配分するかを選択したあなたの経験になる。

この会話から始めるために、例をみなさんに与えよう。私のことを述べさせてほしい。

私が成人の（になったの）キリスト教改宗者であるのは、多くの方が知っている。

私の家族はキリスト教徒ではなかった（今でもキリスト教徒ではない）。

従って、キリスト教徒とはどのようなものであるかを知らなかった。学問的に聖書を読んでいた。

聖書と聖書の歴史を学んでいた。キリスト教徒は明瞭である。聖書を読むだけではキリスト教徒になることはできない。信仰は行動によって変えられてしまう。私は敬虔なキリスト教徒が、どのように行動するのかを知らなかった。例えば、私はどのように祈るかを教えられた。そして、キリスト教徒は富をどうするのかを教えられた。

それはある日のことであった。私は、いかにキリスト教徒になるかを学んでいた。司祭は私の富の一部を教会に捧げるように勧めた。教会に忠実なこの言葉とは、十分の一献金のことである。しばしそれは収入の10% のことである。レビ記を読んでみよう。『土地から取れる収穫量の十分の一は、穀物であれ、果実であれ、主のものである。それは聖なるもので主に属す』（レビ記27:30）。正確な合計を心配しないようにしよう。計算の心配をしないようにしよう。勧め（献金をすること）だけに注意を払おう。

十分の一献金を考慮し始めたのは、私がシングルマザーの時に、パートタイムの仕事で子供を養っていた。今は、私たちは、私の子供たちは決して飢えることはない。あなた方の多くの方は、本当のひもじさを知っている。足りていたが余分はなかった。この司祭は、私の収入の一部を教会に捧げるように勧めた。もし私が捧げたより、もっと収入の道があったなら、教会に私の収入を捧げる。

私はおびえた。私は少しでも子供たちから取り上げることを恐れた。私は心配した。私は子供たちに食べさせることを心配した。私は子供たちに着せることを心配した。私は心配した。そしてそれでも、私は捧げることにした。私は教会へ、収入のパーセントを捧げるサインをした。

そして気が付いた。子供たちがおねだりをする度に、与えることができなかった。私は神に富を捧げたことは分かっていた。私が美味しいものが欲しくなる度に、上等なコーヒーのような小さいものでさえ、手に入れることができなかった。私は神に富に捧げたことは分かっていた。

私がこの霊的实践は（を移したのは）、この世で神と突き当たった場所であった。私が望んでいたことと、神がお望みになっていたことの違いが、私の中で食い違った。そして私は神をより近くに感じた。

私が無一文に突き当たる度に、私の人生に神の臨在を感じた。
そして感じた…愛されていることを。私が所持しているすべてに感謝を感じた。

私の日々の世界に、神聖な存在の強い引力を感じた。

異様な正しさ？ 今でも私には論理的理解ができない。

お金を最も心配していたこの時に、神にお金を捧げ始めた。そして徐々に、お金のことを余り心配するのを止めていった。霊的实践として、私がお金の支配から逃れたことは、私の信仰を深めることにおいて、もっと有益な実践の一つであった。

信仰、それは信頼する—という意味もある。神を信頼する。

執事の職務時期（会計期）に、教会への献金額の割合はいくらかと思ってほしい。ただ、明確にさせてほしい。なぜならこれは大変重要であるからだ。あなたが霊的实践を目撃したり、従事することを勧めたい。教会を心配するのを少しのあいだ忘れよう。司祭として、あなたがたに教会の財政問題の解決を期待しているわけではない。霊的实践に入ってゆくことを勧めている。

この実践は私の人生を変え、私の信仰を形作る。十分の一献金は私にとって重要である。それは本当にすばらしく、みなさんが実践されること深く望んでいる。なぜならみなさんが神に突き当たることを深く望んでいるからだ、私がしたように、私がするように。ここにいるみなさんが、神とより近く感じられることを願っている。

二つの明確にすることがある。

最初にこれは、あなたも、どの人も飢えることを示唆している一節ではない。イエスの例に注目しよう、鳥は十分に養なわれている。イエスの例に気が付くだろう、花は着飾っている。これは富の心配から信仰の豊かさへの変換である、飢えことではない。

これはあなたがたの義務に無責任になることや、放棄することを告げている一節ではない。親鳥や雛が飢えている間、鳥は食事が運ばれてくるのを座って待っているのではない。鳥たちは餌を捕えることや巣作りのため、すべての実際的なことを続ける。これは富の心配から信仰の豊かさへの変換である、無責任さではない。

さらに、イエスの百合の例を見てみよう。百合は他の花々と同様に美しいのだが、向こうに咲いている他の花々がいかに美しいかと噂をしていない。教会を見回すと、世界を見回すと、私たちにとって言葉に絶する誘惑がある。

実際に富を蓄えているこれらすべての人々を見るのだ。

この節を読むのはたやすい。そして豪華な旅行のために宇宙船を送り込んでいるこれらすべての億万長者に注意を向けてみる。

その一方では、国連が世界の飢餓上昇を宣言をしている。

イエスがこの話を、富を多く持っていない従者に告げられたことに気が付くだろう。

これは門弟の訓練について、弟子たちに告げられた物語である。

これは私たちの富との特殊な関連に、私たちを招く一節である。

これは私たちの富をどのように感じるかについての一節である。

なぜなら、ふと神より富を好きになるのは大変たやすい。富を心配するのは大変たやすい。

心配するに及んで、ここで今、ふと（この世に）神の国を創造する求めを止めてしまう。

この感謝祭、収穫と豊かさの季節は、私たちのかじ取りの季節である。

この聖書の節は、弟子である私たちを霊的实践へ招いている。

それは夏の終わりに燕が急降下するのと同じようにすばらしい。

この聖書の節は、弟子である私たちを霊的实践へ招いている。

それは秋の菊が長く咲くのと同じように。

この聖書の節は、弟子である私たちを霊的实践へ招いている。

それは庭の新鮮なサラダを多く摂取すると私たちの体によいのと同じように。

この引用句は十分の一献金の霊的实践を理解するのに役立つ。

あなたの豊かさの一部分を神へ返すこと。

そしてあなたが富のいくらかを差し出すときに気が付くのだ。心配しないでよい。

日々の生活の中で、神との体験に突き当たるの豊作の機会を得るだろう。

神に感謝しよう。

(文責長澤猛)